

2018年3月期 第2四半期 決算説明会

2017年11月14日

堀田丸正株式会社

代表取締役社長 大西 雅美

(東京証券取引所第2部 証券コード8105)

①第1Qの赤字決算から第2Qで反転、黒字化達成

- ・主力の意匠撚糸事業、洋装事業が牽引
- ・準主力の和装事業、寝装事業の効率化実現
- ・(株)馬里邑よりの営業部門取込みが寄与

②100日プランに基づく構造改革の実施

- ・販売管理比率3%改善
- ・子会社吉利の事業所廃止、統合
- ・グループ人事交流による人件費圧縮

③不採算事業の切り離し

- ・タケオニシダ事業の譲渡(10月31日)
- ・前期営業赤字▲29百万(前々期同▲59百万)

- 会社名： 堀田丸正株式会社
- 創業： 1861年(文久元年、創業155年)
- 上場市場： 東京証券取引所 第2部
- 事業内容： 和装品、宝飾品、和装小物・寝装品等の卸売販売、
婦人用品・意匠燃糸等の製造・卸売販売、
横ニットの企画・製造・販売
- 従業員数： 連結 174名 (2017年3月末日時点)

おかげさまで155年

堀田丸正 株式会社



※意匠燃糸(いしょうねんし)とは:

- ・糸の表面に色や形状の加工をし、特徴のある表情や風合い、装飾効果を持たせた糸素材
- ・燃糸(ねんし)技術は、アパレル等の繊維製品の質感、肌触り、デザイン、耐久性などの品質・付加価値を左右する重要な要素技術

決算概要

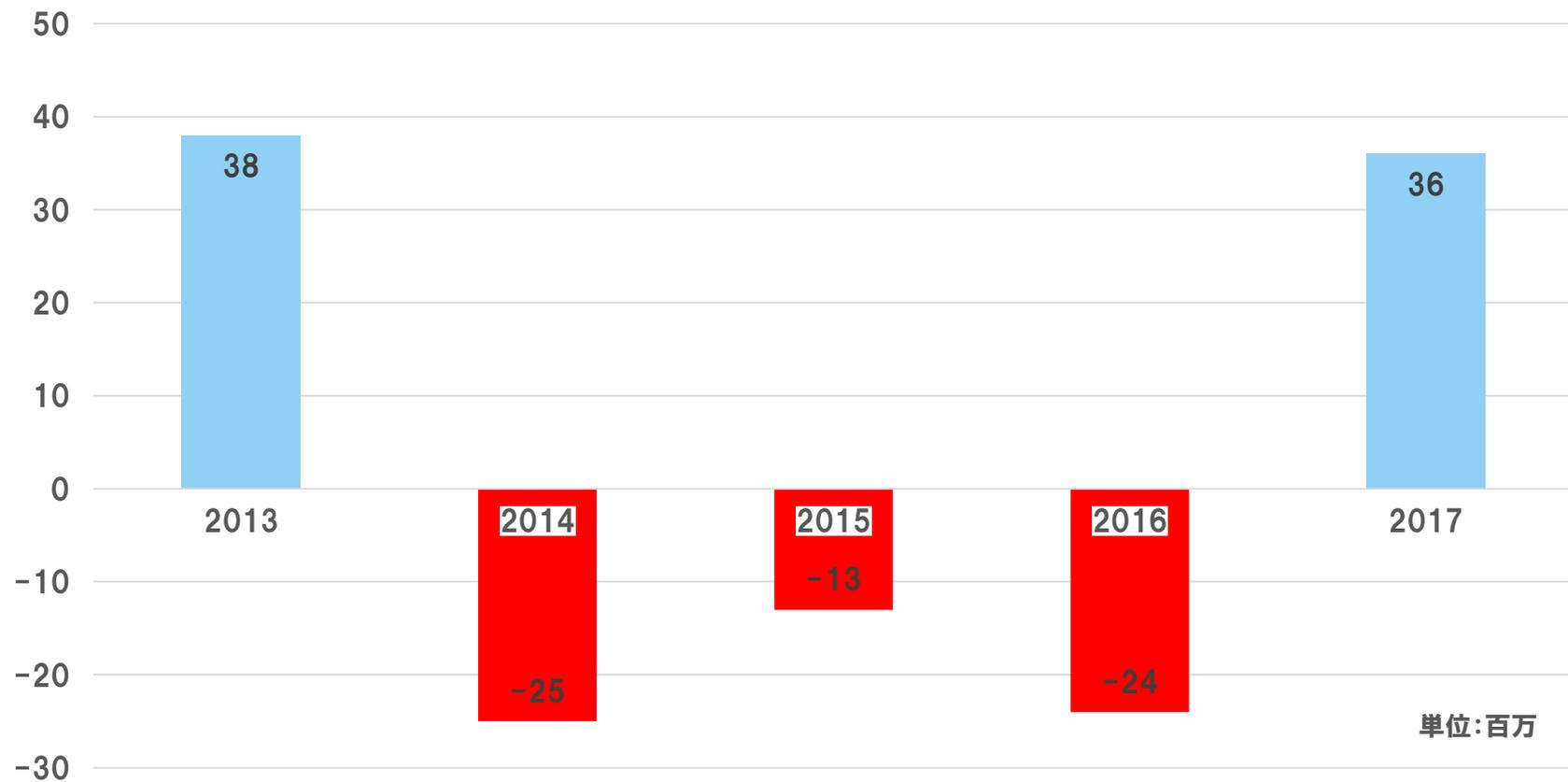
連結損益計算書(第2Q)

- 主力の意匠襪糸事業及び洋装事業が牽引し、売上が飛躍的に伸長
- 第1Qで不振であった和装事業が、確定売上管理の徹底でリカバリー
- 100日プランに基づく構造改革効果が前倒しで現れ、コスト削減が進捗
- 営業利益から当期純利益に至るまで期間利益で黒字転換を実現

(単位:百万円)

	2017年3月期 第2Q	2018年3月期 第2Q	増減額	増減率
売上高	1,716	2,085	+369	+21.5%
売上総利益	546	668	+122	+26.0%
販管費	570	631	+61	+10.7%
営業利益	△24	36	+60	—
経常利益	△17	44	+61	—
当期純利益	△15	37	+52	—

第2Qでは、2013年以来4年ぶりの黒字化達成



連結損益計算書(第2Q累計)

- 馬里邑事業の受入(7/1)もあり、売上・売上総利益大幅増加
- 100日プランに基づく構造改革の実施効果で販売管理費は抑制
- 前期第2Q累計比で、飛躍的に営業利益及び経常利益の改善を実現
- 前期同累計比で当期純利益では黒字転換を達成

(単位:百万円)

	2017年3月期 第2Q累計	2018年3月期 第2Q累計	増減額	増減率
売上高	3,450	3,781	+331	+9.6%
売上総利益	1,137	1,217	+80	+7.0%
販管費	1,131	1,189	+58	+5.1%
営業利益	6	28	+22	+366.6%
経常利益	8	24	+16	+200.0%
当期純利益	△4	11	+15	—

- 洋装事業は(株)馬里邑より営業分野を受入し、売上規模拡大し、利益も牽引
- 和装事業は確定売上管理の徹底、子会社吉利の構造改革推進で好転

(百万円：%)

	売上高				セグメント利益			
	2016/9	2017/9	増減額	前年同期比	2016/9	2017/9	増減額	前年同期比
連結	1,716	2,085	+369	+21.5	△24	36	+60	—
洋装事業	568	930	+362	+63.7	△21	44	+65	—
意匠撚糸事業	486	501	+15	+3.1	47	38	△9	△19.1
和装事業	512	516	+4	+0.8	△24	4	28	—
寝装事業	149	138	△11	△7.4	7	6	△1	△14.2
本社・調整	2	0	△2	—	△33	△57	△24	△72.7

※連結売上高、経常利益、当期利益は連結相殺を含んでおります。

- 主力の意匠襷糸事業及び洋装事業が牽引し、大幅増益を達成
- 第2Qで改善傾向はあるものの和装事業・寝装事業の改革が課題

(百万円：%)

	売上高				セグメント利益			
	2016/9	2017/9	増減額	前年同期比	2016/9	2017/9	増減額	前年同期比
連結	3,450	3,781	+331	+9.6	6	28	+22	+366.6
洋装事業	1,181	1,521	+340	+28.8	△11	77	+88	—
意匠襷糸事業	878	995	+117	13.3	62	67	+5	+8.1
和装事業	1,094	983	△111	△10.1	3	△16	△36	—
寝装事業	294	280	△14	△4.7	12	12	0	0.0
本社・調整	2	0	△2	—	△62	△112	△50	△80.6

※連結売上高、経常利益、当期利益は連結相殺を含んでおります。

連結貸借対照表

- 自己資本率は前期末63.2%から 69.5%に改善
- 流動比率は前期末223.3%から 289.0%に改善

(百万円)

資産の部	2017/3 期末	2017/9末	増減額	負債・ 純資産の部	2017/3 期末	2017/9末	増減額
流動資産	3,503	5,752	+2,249	流動負債	1,568	1,990	+422
固定資産	957	944	△13	固定負債	69	51	△18
資産合計	4,460	6,696	+2,236	純資産	2,821	4,654	+1,833
				負債・純 資産合計	4,460	6,696	+2,236

今後の経営方針

今後の経営方針

①100日プランに基づく構造改革の継続推進

- ・事業所の統廃合及び縮小による効率改善
- ・コスト意識の醸成により、更なる経費節減
- ・グループ人材交流による人件費の圧縮

②主力意匠撚糸及び洋装事業の更なる拡大

- ・意匠撚糸中国現地法人の収益性改善
- ・海外アカウント拡大のための欧米展示会参加
- ・馬里邑事業の効率化及び拡大推進

③RIZAPグループ推進のSPA戦略の基盤づくり

- ・中国現地法人によるライセンス取得
- ・RIZAPグループSPA戦略推進室との連携強化

事業別の方向性

重要方針/戦略

1
意匠撚糸事業の拡大

中国現地法人による海外企業向けの意匠撚糸共有の飛躍的な拡大を図る

既存の上海展示会に加えて、パリ・ミラノでの展示会参加し、新アカウント開発を推進

2
意匠撚糸事業の収益性改善

従来中国商社経由での取引を直取引に変更することでマージン負担軽減

堀田上海の収益構造見直し
東京事業所の本社移転で賃料減

3
洋装事業の拡大強化

7月1日の営業部門を取込んだ馬里邑事業の効率化を実現し、洋装事業の牽引役に転換

洋装事業の主力事業化を実現

4
和装事業の効率化

売上規模縮小と連動したコスト削減を継続実施、利益創造をはかる

京都事業所の賃借面積を半減。
コスト負担大のホテル催事中止。

5
寝装事業の選択と集中

不振の寝装事業を縮小し、好調な葬祭事業を拡大

葬祭事業の全国展開を検討

RIZAPグループのSPAモデル構築の一翼を担う

堀田丸正は意匠燃糸事業の専門性を活かして、グループ内アパレル企業等への「バルクでの糸供給」を行うことで、各社の更なる原価低減及び収益改善に寄与し、加えて今まで培ってきた中国市場での経験を基に新たな商品生産体制の構築をはかる。

RIZAPグループのSPAモデル(製造小売業としてのビジネスモデル)

主な対象会社



素材開発

企画
生産

販売
(店舗・EC)

海外生産体制の強化を推進

- ・グループ各社へのバルクでの「糸供給」
- ・商品生産背景の構築
- ・ライセンス取得での主体的なビジネス環境の実現

堀田丸正

今期の業績見通し(年間)

2Qは当初計画を上回り着地。通期当期計画達成に向け、経過は順調 (単位:百万円)

	2017年3月期 年間	2018年3月期 年間	増減額	増減率
売上高	7,488	7,500	+12	+0.2%
売上総利益	2,398	2,400	+2	+0.1%
販管費	2,311	2,289	△22	△1.0%
営業利益	86	111	+25	+28.3%
経常利益	108	110	+2	+1.2%
当期純利益	86	75	△11	△13.6%

●来期以降も継続的な利益拡大を図るため、下記取組みを推進

- ①赤字であるタケオニシダ事業の譲渡により、特別損失計上
- ②構造改革における費用の軽減(事業所統合・グループ人事交流)

免責事項

本資料は、当社の企業説明に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性・完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがありますので予めご了承ください。